

令和3年度京丹波町総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和4年2月21日（月）

開会：午後1時30分 閉会：午後3時20分

2 開催場所 京丹波町役場 防災会議室

3 構成員出席者 6名

畠中源一町長 松本和久教育長 竹吉美公教育長職務代理者
片山幸男委員 谷文絵委員 金子和子委員

4 事務局出席者 8名

長澤総務課長 堂本教育次長 中野社会教育課長 真野学校教育課長
西田教育振興室長 田端学校指導主事
山内総務課長補佐 辻総務課主事

5 傍聴者 3名

6 会議の概要

〈開会：午後1時00分〉

○開会

畠中町長挨拶

○協議事項

(1) GIGAスクール構想について

- ・GIGAスクール構想について、事務局、保守運用業者からオンラインによる説明。
- ・丹波ひかり小学校児童とオンラインによるライブ中継。

【事務局】ただいま、保守業者からGIGAスクール構想について説明いただき、丹波ひかり小学校の児童とのライブ中継を見ていただきましたが、このことについて、ご質問等がございましたら、よろしくをお願いします。

【委員】町内には通信状況が良くない所もあるとのことだが、下山小学校でオンライン授業を実施された時の様子を伺う。

【事務局】タブレットを使用して課題を一斉に行ったが、通信上の問題は無く、その他にも和知中学校、瑞穂小学校においてタブレットを試行的に持ち帰ってもらっているが、各ご家庭から通信状況が悪いということは聞いていない。

【教育長】GIGAスクール構想ということで、素晴らしい教育環境を整えていただいていると考えている。今まさに、少しずつ手探りでどのような活用がより効果的なのか、探っている状況である。私が期待しているのは、1つは、児童生徒の学びのツールとしての活用です。特に国が進めている主体的、対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングと呼ばれている新しい時代が求める学び、質の高い学びを進める上で、個々の児童生徒がタブレットをうまく使い切るという点では、学びのツールとして今後、活用が期待できると考えている。京丹波町では、京丹波町メソッドで学びの質を高めていくことを進めています。その中においてもタブレットをどう活用するかを模索している。先日も和知中学校で公開授業があり、生徒たちはこのタブレットを使って、自身の学びを整理してまとめて、生徒間でお互いに学んだことを交換し合うということで、対話的、主体的な学びを少しずつ進めていただいていると感じました。

もう一つは、通信のツールとして期待している。今、コロナ禍にあるので、児童生徒の学びを止めないということで、機能を発揮しつつあります。先ほど丹波ひかり小学校とのオンライン中継を見ていただきましたが、学級閉鎖中に担任と家庭にいる子供たちをつないで、朝の学活の時間に子供たちの出欠を取りました。今までなら学級閉鎖の時は、担任が各家庭に電話をして児童生徒の様子を確認していましたが、瞬時にして、しかもお互いの顔が見えるということで、そういう意味では、活用範囲が非常に広いツールであると考えています。また、その後の授業においても様子を見ていましたが、担任が小さな黒板を用意して、例えば、漢字の読みの説明をしていました。そうすると向こう側にいる児童が、それぞれ教師が質問すると返ってくる。遠隔ではありますが、まるで教室で授業しているような雰囲気を感じました。そして、よかったのは、日ごろ、皆の前では恥ずかしがり屋の児童も、そういった環境では安心して発言しており、ほとんどの児童の声が返ってくるということで、コロナ禍であっても学びを止めない、そういったツールとして非常に期待が持てると考えている。

そして、学校と家庭をつなぐツールとして、保護者の皆様に様々なことをお伝えするツールとしても活用をいただいている。GIGAスクールでは、学びの質を高めると同時に、教師と児童生徒、或いは学校と家庭をつなぐツールとしても今後さらに活用が期待できると考えている。今回のコロナ禍をひとつの経験として、活用方法をさらに深めていきたいと考えている。先ほどの和知中学校の授業研究の時は、コロナ禍で他校から先生に来ていただけなかった、多元中継で各校と結んで、その後の事後研究においても、そのツールを使って授業研究ができたので、今後の活用方法をさらに研究していきたいと考えている。

【委員】オンライン授業で、それぞれのご家庭での操作のサポートができていたのか伺

う。オンライン授業中に各ご家庭に保護者がいらっしゃらない場合もあると思うがどうか。また、オンライン授業を同じ時間に開始することをどのようにして児童と共有を図ったのか。

【事務局】例えば瑞穂小学校の場合ですが、2年生に持ち帰りをいただいています。急な場合は、担任等が直接個別訪問をして各家庭にタブレットを持っていっている。そこで保護者とコミュニケーションを取るのと、基本的に日ごろからタブレットを使用しているので、通信さえつながれば、どこでも勉強ができる状況を作っていただいている。

【委員】この間、新聞等でICTを使った授業を45分間受けることが難しいとの報道を見たが、配信する側の、視覚や聴覚に与えるインパクトのある授業の進め方等がこれからの課題になると考える。能動的な学びの姿勢が、今まで以上に少し失われる心配があると思うが、ICTという素晴らしいものを使用しながら一人一台の端末を持つからこそその使い方がもっと広がっていけばいいなと考える。現在、京丹波町でも、それぞれの先生方が、各教科において勉強いただいて、5教科以外のことも積極的に使っていただいているのは、教育委員として授業を見させていただいて、すごく感じており、本町でも広がりを見せていると考えている。今、小学校、中学校という段階で、高校まではつながりはありませんが、ますます京丹波町のどの家庭においても町長から先ほどありましたとおり、コミュニティースクールの活用ということも、ICTを使って広がればいいなと感じましたし、京丹波町には、地域によっては通信状況が悪いところもありますので、今後整備して活用の広がりを期待しています。

(2) 健康ウォーキング・どこでも図書館構想について

・健康ウォーキング・どこでも図書館構想について、教育委員会事務局より説明。

【事務局】ただいま、教育委員会事務局から健康ウォーキングとどこでも図書館構想について、説明をさせていただきましたが、これらのことについてご質問等はございませんか。

【委員】どこでも図書館ではないですが、こだちの職員さんと話していましたが、和知からは子供たちがあまり来ていないと聞きました。やはり、どの地域も同じサービスというのを基本に考えなければならないと思う。この辺の子供たちや瑞穂からは、そこそこ利用されているようですが、学習できる場所であったりとか、和知地域も同じようなことができるかと考えている。こだちに来ると大勢の方が本当に色々なことをされていて、熱心に自分のやりたいことをやられたり、話していたりされています。そういう状況が他のところでもできるとよいと考える。お茶が飲めたりだとか、何かできることがまだまだあるのではないかと思う。是非ともよろしくお願いします。

【事務局】本庁舎を本拠地として移動図書館号で直接各地域に行けるようにしたいと考えている。今後、どの地域においても同じサービスを提供できるような仕組みを構築したいと考えている。

【委員】健康ウォーキングにしても、図書室の利用にしても蔵書のネットワーク化もして

いただきましたが、以前からスマートフォンを活用できる人とできない人で、年齢関係なく差ができていて、あんしんアプリに変わったこともそうですが、町民皆さんが難なくスマートフォンを使いこなせるレベルにならないと、どんどん置いていかれる人達がおられて、また、健幸ウォーキングもこれに参加せずにウォーキングをやられている方もいっぱいおられて、その方をどう巻き込んで一緒に楽しみながらやっていくかという切っ掛け作りとか、以前に全国のラジオ体操の中継が丹波自然運動公園で早朝にあったと思いますが、声をかけあって、みんなワクワクした気持ちで早朝にもかかわらず集まったことがありましたが、何かしらそういうちょっとしたお楽しみの切っ掛けがあって、スマートフォンの使い方であったり、登録ができたり、誰かと知り合いになって、別にそこでできなくても、後で交流しながら一緒に楽しんでやっていけるという全てにおいて、まず、そこが大事だと思います。図書室の便利さとか、どんどん色々していただいても、その人たちには、当たり前のサービスとして利用されても、全くそれに興味の無い人たちがおられて、手に取っていただけるところからやっていただかないと、まだまだ少ない感じがするので、そこをどう上げていくのか、切っ掛けや仕掛けがすごく大事だと考える。子供たちだけがどんどんやれて、進んでいっても、コミュニティスクールの地域の人たちとの交流や関わり合いで、地域の人たちも同じように操作ができて交流できる、共有して話題を楽しめたり、当たり前のツールとして活用できてこそ、次があるような気がします。そういう人たちを忘れないで、一緒にやっていかなければと考えている。

【事務局】確かにスマートフォンやパソコンができる人ばかりというところはございますが、今のところこういったことをきっかけに推進をしているところでございます。先程も説明させていただきましたが、オクトーバーランアンドウォークというイベントをやっています、使い方がわからないとおっしゃる方には、個別に支援をさせていただいております。また、女性の会の皆様から声をいただいた時には、その場に出向いて説明をさせていただいたり、スマートフォン講習会的なこともやらせていただいたり、3月に新しいイベントを予定していますが、ダウンロードやインストールの仕方の説明をさせていただくことも予定しています。おっしゃる通りスマートフォンを使われない方への推進というのは難しいところがありますが、このことだけではなく体を動かすことの大切さは、ケーブルテレビの番組等を通じてお声かけもさせていただいておりますし、図書のほうでも移動図書館号でいろんな所に出向いて、できるだけ身近な所でサービスを受けていただけるような環境を作っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

【委員】私も色々なグループの仲間とスマートフォンやラインでつながっていますが、中にはスマートフォンをどうしても持たないという方がおられます。その方なりのポリシーがあって持たないというのは理解できますが、全くつながりが無くなるわけではないですが、非常に便利なツールとしてスマートフォンがあるのですが、どうしても持ちたくない方を取り込むことは難しいので、いくつかのグループの中で、そういった方が離れて行ってしまいう残念な経験をしたことがある。せつかく前向きに取り組んでいる事業の中でおきてし

まいますと非常にもったいないと思う。そういった方も一緒に同じような思いができないかと、何か工夫できないかと考えているが、なかなか難しい課題であると思う。また、どこでも図書館の話で、事務局からグラフを提示していただきましたが、環境を整えば人は集まるということも思った。周辺部の環境を整えるということで、このように充実したものはできないかもしれませんが、ここに近づけるような、例えばお茶を飲みながら本を読めるということも、ここだけではなく、周辺部でも実現できないかということで、少し周辺部のことも考慮しながら環境を整えていくことも大事だと感じた。

【事務局】町内の学校の先生と話す機会がありましたが、情報アプリを使用されていますが、ある学年の利用率が低かったが、子供たちの様子を配信したら一気に登録が増えたことがあったそうです。我々も様々な事業を行う中で、数字や利用率が上がらないということは、我々が、そのニーズに合わせた事業ができていないということだと思ふ。健幸ウォーキングにしても年々、利用者が増えていますが、町の担当課と連携して、様々なきっかけや仕掛けづくりをしたいと考えている。令和4年度から町民大学を開講する予定であるが、そのひとつの講座として、スマホ教室も考えている。図書の貸し出しについても一定前を向いて動き始めたところであり、今しばらくお時間をいただきたいと存じます。

【町長】私は、少子高齢化の状況を憂うのではなく、皆さんが元気でいつまでも活動できる、それが幸せにつながるんだという意味で健幸という言葉を使わせていただいております。そういった意味では、健幸ウォーキングというのは、もちろん健康を保持する、或いは増進するとともに、楽しんで歩いていただくことが大事だろうと思っている。昔から歩くということは、非常に大事なことです。私も昔、奈良県の明日香村の山の上のウォーキングがあつて、2、3回、朝4時頃に起きて奈良県まで行って歩いたことがあります。3万人くらい来られてたと思いますが、歩きながら解説もいただいて、非常に楽しかった思い出があります。これから始めるところなので、色々なやり方があると思うので、是非とも、これを楽しいウォーキングにして、より一層広めていくような、もちろんスマートフォンを利用するなどの要件がありますが、どうかひとつ乗り越えてやっていただきたい。最初の挨拶で申し述べさせていただきましたとおり、ウェルネス構想を令和4年度に作っていきたいと考えている中で、これをしっかり取り入れて、雰囲気をもっともっと盛り上げていきたいと考えている。今、社会教育課の中で担当していただいておりますが、もっと広がりができるような町全体の取り組みを進めたいと思っております。それと、この図書館構想ですが、報道でも大きく取り上げていただき大変感謝している。振興局長と様々な議論をする中でも、非常に面白い取り組みであると評価いただいております。また、住民票や印鑑登録等、様々な手続きで役場へ行った帰りに、本を読んだり、コーヒーを飲んだりする方がどれくらいおられるのかなと思っておりましたが、現在、大変多くの方が利用されており、私は、人々はこういったことを望まれていたことを改めて認識しました。これはすごいことなんだと、今、委員もおっしゃいましたが、こういった場が必要だったんだと思いました。そこで知識を吸収する、少し気持ちをやわらげてコーヒーを飲みながら本を読む。中には大学生がパソコン

を持参し、リモート授業を受けている。委員さんが常々主張されていたことで、中々強固な図書基盤が難しいとしても、第一歩を築いていただいたことが素晴らしいことだと思う。このことは、他の自治体の方からも、賞賛の声をたくさんいただいております。京丹波町役場の庁舎は面白い建物なのだな、いくなれば付加価値が付いております。これはすごい魅力であると感じる。そういう意味では京丹波町は先陣をきって行った。これは皆様の知恵の結晶であり、感謝申し上げます。もっともっとこれを展開していき、皆さんに来ていただけるように考え、皆様のお知恵を借りなければならないと考える。町民大学をやってはどうかと提唱させていただき、新年度予算で社会教育の中で取り組んでいただくことを予定しており、こういう中で読書感を披露いただいたり、読んだ本で皆さんに議論をいただいたり、或いは広報で読まれた本の感想文を掲載するとか、こんな本が面白いと提案いただいたり、色々な仕掛けやアイデアがたくさんあると思う。健幸ウォーキング、どこでも図書館構想が展開されるが、楽しみにしている。

【委員】小学校、中学校の図書においても検索ができるのか。

【事務局】学校の図書については、現在のところデータ化できていないので、検索はできません。

【町長】今の子供たちは、スマートフォンが得意で、スマホばかり見ているイメージがありますが、読書がなおざりになっている状況はないでしょうか。学校現場で今もやっておられるのかわかりませんが、朝に読書時間を設けるとか、どのような状況でしょうか。

【事務局】一昨年前、町から図書カードを配布した際、その使い道についてアンケートを行いました。中学生では、朝読書の本を買ったという答えがあった。また、小中学校ともに読書指導員さんに入らせていただいております。読書環境をサポートしてもらっている。

【町長】読書量的にはどうでしょうか。以前と比較して減っていますか。

【委員】減っています。タブレットで電子書籍を読んでいる子もいるが、電子書籍で書く力がつくかどうかは、私は怪しいと思っている。できれば紙の本を読む習慣をつけてほしい。大学に行って論文を書く時の思考的なまとめ方をする時に困るのではないかと思う。できれば親が新聞を読んでほしいし、最近は新聞を購読されない方が増えているようだが、子どもがいる間だけでも新聞をとって読んでほしいと個人的に思う。中学校の場合ですと、給食を食べた帰りに図書室によって皆で借りたりしていたが、今はコロナ禍で教室で給食を食べるので、本の好きな生徒しか図書室に来ない状況です。

【町長】子どもたちの読解力は以前と比較して向上していますか。

【指導主事】読解力としてデータでしっかりとっているものではないですが、語彙力は少なくなっていると思う。例えばテレビを見ていますと、食べ物を食べて、タレントの方がめっちゃ美味しいとか「めっちゃ」という言葉だけでなく、これはダシがいいですねとか、のどごしが爽やかですねとか、そういった言葉が少なくなっているの、子供たちが語彙を増やしていく、ひとつのことでも色々な表現の仕方があるということ、使っていく体験が少なくなっていることは、否めないと思う。しかし、読書のことであったり、タブレット

で調べると、たくさんの言葉を見つけることができますので、敢えてそこから言葉を獲得していく、そういう方法も今後考えれると思う。そして、読解力ですが、イメージ化することが大事であるとする。小さい時から絵本を読み聞かせてもらっている。そして、絵本を読む中で家族と会話しながら、「これはどういうことなんだろう」とか、主人公は「どんなことを考えているだろう」とか、そういうふうなことをしながら想像力をたくましくしていくと、おのずと読解力の基礎というものができると思うので、特に就学前での環境作りが大事になってくると思われる。

【指導主事】中学校によっては朝読書を行っているという。ただし、読書量に限って申し上げますと、家でスマホやゲームをする時間がものすごく増えている。分析をきちんとしたわけではないが、コロナ禍により、家の中にいる時間が長くなっていることが、読書ではなく、スマホやゲームの時間に向かっている状況を呈しているように見える。また、コロナの影響で保護者に余裕がなくなり、生活状況も厳しくなっていることが推察できる。そのためネグレクト的な状況に置かれる子どもが増加しているような報告も受けている。そういったことについても対応を検討することが必要ですし、読書が少なくなっている背景を探っていくことも必要ではないかと考えている。

【町長】大学入試の傾向を新聞で見ますが、国語力は非常に重要であると思う。数学についても国語ができないと中々理解できない。英語であっても国語力があると、ひとつの単語がわからなくても、前後から想像することができる。そういう意味では、国語力、読解力が一番大事かもしれません。

【委員】ずっと以前から図書館と言っていますが、おっしゃっておられることもそうなのですが、図書室がいくつあっても図書館ではないんです。こどもも図書室ができて図書サービスとなっても、やはりリーダー的な図書室をひとまとめにして、色々な取り組みがあったり、こども園、小学校、中学校、須知高校の図書室と連携して、図書館の司書、スタッフの人たちが、それぞれの学校の図書の担当の先生や図書の読書指導員、司書さんたちと、それぞれの課題解決というか本と親しくなり、今、困っておられるそれぞれのところの図書に関するサービスであったり、学習であったりをサポートするという、そこがすごく大事です。お隣の綾部市は、今の図書館は、家庭裁判所をされていた建物を今使って図書館をされています。その中のスタッフは、綾部市内の幼稚園、小学校、中学校に話に行かれて、ブックトークであったり、ブックトークというのは、本に興味を持ってもらって、それぞれの時間を与えて、読まされているのではなくて、自らが読みたくなる仕掛けを、図書館のスタッフの人たちが出前でやられることがあったり、それは、今は図書室という同じ立場の人たちが、なんとか連携を取ってやっているの、図書館がないので、そうすると教育委員会が、頑張って色んな欠けている部分であったり、大事なところをすごく感じている。こどもができて、また、全く本に興味がない人たちも、まず雑誌からとか、周りに本があるとちょっと手に取ってみるとか、活字を読まれるという環境ができてきたのは、すごい有難くて、前進したなと喜んでいますが、周りを見ると、まだ、できていないところがあるかと思う。それ

それに頑張っておられるのですが、もっと連携をして、みんなで高めていくことが大事であると考えます。

【事務局】約30年間変化がなかった図書ですが、ここ1年でずいぶん環境が良くなり、前進したと考えている。どこでも図書館構想の先に目標があるので、教育委員会においても、その都度ご意見を賜り、より良いものにしていきたいと考えている。

【事務局】最後に、その他意見交流につきましては、町長や教育委員様から、これまでのことを含め、教育全般につきまして、ご意見やご提言をお受けしたいと思います。

【町長】教育は、町づくりの中心施策に据えていきたいのですが、京都府に行った時に、京都府は教育環境日本一を目指す、私は、府下一位を目指すと申し上げました。一番になるかどうかは別として、目を見張るような、いわゆる京丹波町メソッドというものを確立していく必要があるなと思っております。まだ、実際のところはっきりどうしていったらよいかわからない所ですが、どうしたら教育環境が整い、人材投資ができるのか、言葉ばかり先行していますが、中身をどうするんだということです。教育環境といった場合は、ハード面のイメージが強いですが、極端な話、お金さえ投じさえすれば、教育環境、いわゆるハード面の整備はできますが、実はそれだけでは教育ができるわけではございません。教育というのは、まことに奥が深く、現場の先生方は、答えがないので、非常にご苦労されていると思う。だからこそ、メソッドというのかもしれませんが、その中で京丹波方式を打ち立てるには、どうしたらよいかわかりません。ですから現場の先生方のお知恵をどんどん出していただいて、また、教育委員さんも、それぞれのお立場から、色々な意見を出していただきたいと思っております。そして、地域の人を巻き込んでほしいと考えております。私は、常々考えていましたが、人というのは、一人では生きていけないと思っております。やはり、寄り添って、励ましあって、できれば褒めたたえて、すると皆うれしくなる、寂しくなくなる。その反対に、人は孤立させたり、或いは寂しがらせると変な方向に走ることが往々にして多い。それが、虐待であったり、或いは差別につながったり、そういうことになるのではないかと思います。そうすると、子供たちを孤立させない方法、寂しがらせない方法がどうしたらできるのか、そうして反対に、激励し合って、褒め合って、いいところをどんどん伸ばしてやる。そういうことができれば、教育としては成功かなと思っております。昨年8月にオリンピックで無観客試合がありましたが、選手たちは本当に100%の力が発揮できたのか、人はやはり、大きな声で励まされ、ラップを吹き鳴らし、みんなで合唱し、すると自分では信じられないような力が湧き出てくるのが、往々にしてあります。したがって、応援し合うようなシステムができないだろうか、また、コミュニティカレッジと言いましたが、私は、入園式、入学式、卒業式でも自分たちの子供たちが行っていないにもかかわらず、地域の人たちが積極的に参加する。よその子でも、「おめでとう」「よく頑張ったな」と、そんな雰囲気ができれば、この町は、もっと良い町になる。或いは成人式でも「ここまでよく育ったな」と地域の人がみんなで押しかけてきて、人々は、やはり焦点を当てられると気分が高揚して、本当にその時の表情というのは、素晴らしいものがあります。スポットを当てるということは、非常に大

事だと思ふ。人が、それぞれ主役になっていいんですよ。いつかはみんなが主役にならないといけない。そんな町になったら私はすごいなと思ふ。町民の一人ひとりが主役になって、みんなから褒められたら、すると目が生き生きしてくる。そう思ふ。そんな町を私は願っています。ですから、どうしたらそうなるのか解りませんが、学校現場で何かそういうことを少しでも考えていただいて、教育にあたっていただければいいなと思ふ。この町で、子どもたちが大自然の中で、おおらかに元気に多少のことでは負けない力を蓄えて、且つ、学力も充実すれば、こんな素晴らしい環境はないと思ふ。他からも京丹波町で人を育ててみたいなど、子供を育ててみたいなど、そんなところに住もうかなと思ふ。いただけたらいいなと思ふ。先生方には、何かと大変なことは、承知しておりますが、自信を持って教育にあたっていただきたいと思ふ。

【教育長】今日の会議の中でウォーキングにしても読書にしても、これはみんなの願いです。みんなの願いにどうお答えするのか、これが教育委員会の仕事ですが、それを教育委員会がどうアレンジメントするかだと思ふ。立派な建物を建てることができればいいでしょうし、ハード面が揃えばさらに良いかもしれませんが、京丹波町らしさの特性を活かして、人を育てたり、システムをマネジメントしたり、そうしようと思えば、もちろん教育委員会だけではダメで、教育委員会は、そのマネジメントの元締め役をする必要がありますが、一緒になって考えていただいて、例えばウォーキングであれば、スポーツ推進員の皆さんであったり、スポーツ協会であったり、こういう方々と一緒になって歩く楽しさ、それから、教育委員会が事業でなくても歩いている人はたくさんおられます。それを、みんなでもっとうまくつながって歩くことが楽しいという、このアレンジメントをするのが、我々の仕事だと考えている。図書も全く同じですが、こだちができたことによって、これだけ多くの人、これまでの倍増をしたわけですので、これは、アレンジメント、仕掛けがあつて、このニーズは広くあることに間違いありませんので、そういう意味では、委員さんからありましたとおり、やはりそれを支える人を育てる必要がある。京丹波町らしいシステムを作ることに我々の仕事があると思ふ。「事業の本質は顧客の創造」「事業の目的は顧客の満足」だと、まさに本日議論いただいたことであります。本日は色々なヒントをいただきありがとうございました。

【事務局】それでは、その他ご意見がないようですので、これを持ちまして、協議事項を終了いたします。閉会に際しまして、松本教育長からごあいさつをいただきます。

○閉会

松本教育長挨拶

〈閉会：午後3時20分〉